



# のワークショップで私たちの声を届けました！

約3カ月にわたってプログラムが実施された令和6年度のTeensムサカツ。実際にどんな活動が行われたのか、その概要を紹介。また参加者の有志が集まって、活動について振り返りながら、率直な思いを語ってくれました。

〈令和6年度テーマ〉

## 『こんなまちになったらいいな』を市政に



左から、幸二郎さん(高校1年)、和奏さん(中学3年)、和樹さん(高校3年)、千夏さん(中学3年)、理太さん(高校1年)  
※学年は参加当時

### Teens ムサカツとは？

公募で集まった市内在住・在学の中高校生世代が、一つのテーマのもと、まちの現状を自分たち自身で知り、話し合いの上でより良いまちになるよう考え、中高生世代の意見を市に伝える活動です。

STEP 1

出会う

STEP 2

知る・学ぶ

STEP 3

動く vol.1

STEP 4

動く vol.2

STEP 5

伝える vol.1

STEP 6

伝える vol.2

《いただいた提案は、中高生世代からの意見として市がしっかり受け止めます》

#### 和奏さん

私は武蔵野市が大好き。学校給食がおいしくて、まちを歩いても緑が多くて気持ちがいい。そんな市に何かお返ししたいなと思っていたので、ムサカツを知って参加してみました。



#### 和樹さん

ムサカツのチラシを見て、友達から「一緒にやってみよう」と誘われたのがきっかけです。友達ができ「来年もやろう!」と言われ、連続して参加しています。

#### 千夏さん

ムサカツに参加した理由は、図書館に貼ってあったポスターを見て、この活動に興味を持ったからです。どちらかというと、活動内容に引かれたというよりは、学校以外で友達をつくりたかったというのが本音。

Voice

## STEP 2 知る・学ぶ

### フィールドワークと振り返り

各グループのテーマに沿って、実際に市内にある施設などに足を運び実地調査。利用者やそこで働く人たちに話を聞くなどして現状の理解を深めました。またグループ内で気付いたことや感想を共有したり、課題を見つかったり、アイデア・意見を出し合いました。



フィールドワーク (吉祥寺北コミセン)



フィールドワーク後の振り返り

## STEP 1 出会う

### 参加者同士の交流とフィールドワーク準備

武蔵野市における「中高生世代の居場所」「まちのにぎわい」「多世代交流」の実情を探るため、3つにグループ分け。活動の仲間となるメンバーを知るためのアイスブレイク(囲田気づくり)を行いながら、フィールドワークに向けて、市の施策について学んだり関心事を共有したりするなど事前準備を実施しました。



インタビューの練習をしている様子



フィールドワークに向けて準備をしているところ

#### 和奏さん

「多世代交流」をテーマにしたグループで、「今の時代は人との関わりが薄い」という意見が多く集まりました。私たち10代の世代も、昔のご近所付き合いのような、“顔が分かる関係”を求めているんだと分かりました。

#### 理太さん

自分たちのグループは、「まちのにぎわい」をテーマに商店街に出掛けました。実際に商売をしている人から話を聞くのは初めてのことで、お店の方も苦労話を含めて本音で話をしてくれてすごく良い経験ができました。



#### 幸二郎さん

「居場所」調査のために、武蔵野プレイスに行きました。人がたくさんいて中高生の「居場所」にはなっているけど、逆に大人気だから席が取りづらい。そこから「どうすれば？」と考えていきました。

## STEP 3 動く vol.1

### アクション作成・準備

フィールドワークを受けて、自分たちが感じた課題や興味・関心を持ったことなどをグループ内で話し合いました。その上で3グループを細分化し、アクションの実施に向けた6チームを編成。アクションを形にするための企画作りを行いました。



吉祥寺北コミセンでの座談会の様子



武蔵野プレイスでのお菓子作り企画の様子



アクションに向けての企画作りの様子



## Voice

### 和奏さん

どんな人でも参加できる料理教室を開いて多世代交流してみようと企画・実行しました。実際に参加してくれた人たちを見て、人とのつながりを求めている人たちが本当に一定数いることを実感しました。

### 理太さん

商店街が「まちのにぎわい」を生む場になるということで、地域食堂に行ってお手伝いをさせてもらいました。地域食堂にさまざまな人たちが集まっていることを知り、「物を売る」だけではない商店街の別の側面を知ることができました。

### 幸二郎さん

ムサカツの活動のために、学校に掛け合って全生徒に実態調査のアンケートを取った仲間がいて、とても影響を受けました。僕も学校に交渉して、1学年だけでしたがアンケートを取ることに成功。500人以上から回答を得られたのは良い経験になりました。





グリーンパーク商店街をキャンドルで飾り付け

## STEP 4 動く vol.2

### アクション実施

自分たちが企画したアクションを実行しました。「自習室」に関するアンケート調査、商店街に来るきっかけづくり、多世代と関わるための場づくりなど、課題解決に向けたアイデアをもとに実際に自分たちで行動。頭の中で考えていた時とは異なる、実行することの難しさや、周りの協力を経て目的がなかったときの達成感などを経験しました。



地域食室のお手伝いの様子

TEENSムサカツ

中高生の皆さん…

# 自習室 足りてますか？

Teensムサカツの取り組み

form↓

【本アンケート実施に関するお問い合わせ】  
特定非営利活動法人文化学習支援ネットワーク  
Teensムサカツ 運営事務局  
TEL 0422-47-8708 メール musakatsu@pbpubunka.net  
\*Teensムサカツは、本町教育委員会に指定された活動拠点にて活動しています。本町、本館、本館南館をまたぎ活動する場合は、事前に活動場所についてのご連絡をお願いいたします。  
\*活動期間：令和5年度前半（令和5年10月～令和6年3月）を予定しています。

【Teensムサカツ事業に関するお問い合わせ】  
武蔵野市児童青少年課  
TEL 0422-60-1853 A-61. mail: jibousei@city.musashino.lg.jp

「自習室」に関するアンケートチラシ

## STEP 5 伝える vol.1

### アクションの振り返りと提案作成

これまでの活動から得た自分たちらしい視点をベースに、市に対する提案を整理。「こんなまちになってほしい（願い）」「なぜその願いを持ったのか（背景）」「実現に向けたアイデア（具体案・要望）」を考えながら、提案時に必要な発表用のスライドなどを作成しました。



市政提案作りの様子



#### 理太さん

市への提案を作るに当たっては、1回提言するだけじゃ多分伝わりきらない。まちを調査して、何度も伝え続けるんだという気持ちでいましたね。

#### 和奏さん

活動を通じて、市にただ意見を言うんじゃなく、調査をしたり、実際に活動したりすることによって、その必要性や本気度が相手に伝わるんだということを教わった気がします。



#### 千夏さん

提案事項を作るだけじゃなく、今の私たちの現状や気持ちも一緒にちゃんと伝えるにはどうしたらいいのかすごく考えました。

#### 和樹さん

アクションの準備をするに当たっては困ったことも。時間が足りないこともあったし、人数がうまく集まらなかったり…。

## STEP 6 伝える vol.2

### 市政提案会

#### 「こんな“まち”になったらいいな」を伝えよう

市長をはじめ、市役所のさまざまな部署、商店会などの関係者を前に、全3グループがこれまでの活動を通して考えた自分たちの「願い」と「提案」を発表。その後、各グループが作成したポスターを掲示し、来場者と意見交換を行いました。最後に市長や教育部長から各グループに対して感想や意見などが伝えられました。提案会終了後には、Teens ムサカツの修了式が行われました。



提案を発表する様子



市長をはじめ来場者と意見交換をしました



来場者からのコメントを付箋に残しました

### 中高生の 思いを受け取り できるだけ支援を

小美濃安弘 市長



「勉強する場所が欲しい」「自分たちが主体的に関わって何かやりたい」「中高生同士で交流できる場が欲しい」…各グループの皆さんから直接話を聞いてみると、自己実現や自己成長などの最終目標を念頭に置いて、それぞれ提案してくれたのかなと感じました。

参加してくださった中高生の皆さんの思いや要望はしっかりと受け取りました。市としても関係各所に中高生の思いを伝えたり、中高生の皆さんに必要な情報がきちんと伝わるように発信方法を工夫したり、できる限りの支援をしていきたいと思っています。(当日の講評より)

### Voice

#### 和奏さん

提案会で市の人に話があまり通じなかったことは正直残念でした。でも意見を聞いてもらうだけでも大きな前進だったと思います!



#### 千夏さん

提案が通るかという難しいんですね。でも市が私たちとちゃんと向き合ってくれたのはうれしかったです。新しい友達もできました!

#### 理太さん

互いに異なる環境や意見を持っているからこそ、みんなが本当に熱意を持って意見を出し合うことがこんなに楽しいことなんだからって実感できました。

#### 幸二郎さん

活動のゴールは、意見の採用ではなく、自分たちで考えたことを遂行できたこと。それが達成できたから「参加して良かった」です。

#### 和樹さん

コミュニケーションをとることが苦手だった自分にとって、Teens ムサカツは自分を成長させる良い機会になりました!



# あなたもムサカツに参加してみよう！



今年度もTeensムサカツを実施します。みんなが暮らす、通う、「武蔵野市」をもっと良くするために、市ができること、中高生世代の皆さんができることを話し合ってみませんか。

## 募集要項

- テーマ 「こんなまちになったらいいな」を市政に
- 対象 市内在住・在学の中学生・高校生世代
- 定員 30名（超えた場合抽選）
- 申込 7月1日（火）～31日（木）に市ホームページから



申し込みはこちらから

記念品を贈呈します

- ・図書カード（参加回数により金額が異なります）
- ・参加証明書

## スケジュール

日程	会場	内容
第1回 8月25日（月）	商工会館 市民会議室	ガイダンス、交流会
第2回 9月21日（日）		フィールドワーク、振り返り
第3回 10月19日（日）		グループディスカッション、提案作成
第4回 11月23日（日・祝）		市職員との意見交換、提案作成
第5回 12月21日（日）	スイング レインボーサロン	市政への提案、修了式

\*第2回を除き午前10時～午後5時（予定）、第2回は時間未定

## 報告書ができました

令和6年度の活動内容をまとめた報告書ができました。市ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



市ホームページ



## バトンを受け取り、 市政に生かす

児童青少年課  
佐々木さん



武蔵野市としては、子どもたちが自分たちの意見を表明する場づくりや、子どもにも市政に参加してもらうことを大切に考えています。その体现の場の一つとしてTeensムサカツがあります。届けられた声<sup>しん</sup>を真摯<sup>しん</sup>に受け止めて、どう形にしていくなか、子どもたちからのバトンを受け大人も知恵を絞っていきたく思います。

## 新しい仲間、新しい 自分自身に出会える場

NPO法人  
文化学習協同ネットワーク  
Teensムサカツ運営事務局

見尾田さん（左） 大山さん（右）



Teensムサカツは、最終的に市政に意見を届けるので、ハードルが高いと感じるかもしれませんが、「おしゃべり」を軸にお互いが知り合うことを大切にしています。同世代が集まり、一緒にまちに出掛け、今の思いを言葉にすることで、自分の本心を知ることができる、そんな一面があるように感じます。ほかにも、学校や家にいるだけでは得られない視点を持つことができたり、新しい仲間との交流が生まれたり、Teensムサカツの活動にはさまざまな側面があります。どんな目的やきっかけでも構いません。興味を持ったら、ぜひTeensムサカツに参加してみてください。